モーリシャス油流出事故における環境省の対応について

令和2年9月14日

環境省
自然環境局/水・大気環境局

1．モーリシャス油流出事故の概要について

現地概要

WAKASHIO座礁

現地時間7月25日、モーリシャス南東岸から0.9nm(=約1.7km)地点においてサンゴ礁に乗りあげ

船　　名　：WAKASHIO
船舶所有者：OKIYO　MARITTIME　CORP
管理会社　：長鋪(ながしき)汽船
運航会社　：商船三井
船　　籍　：パナマ
船　　種　：ばら積み貨物
長　　さ　：300m
総トン数　：101,932トン
乗　　員　：20名（インド人船長ほか）
積　　荷　：なし（燃料（約4000トン）のみ）
※ブラジルで鉱石を積むため、中国からブラジルに積荷なしで向かっていたもの

２．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
国際緊急援助隊（二次隊）派遣

【二次隊の活動状況】

メンバー：

①環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室　室長補佐
堀野上　貴章（ほりのうえ　たかあき）

②環境省自然環境局自然環境計画課　課長補佐
羽井佐　幸宏（はいさ　ゆきひろ）

③国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター　センター長
山野　博哉（やまの　ひろや）

④国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター　主任研究員
牧　秀明（まき　ひであき）

※このほか、外務省１名、JICA２名を派遣

※①②の２名は現在も継続して活動中（９月９日時点）

活動状況：

・海洋汚染の状況調査、各種現地対策会議への参加
・汚染拡大防止及び除去のための油吸着材などの供与
・マングローブ林の状況確認及び油防除方法の提案
・サンゴ群集の状況確認及び今後の対処方法の提案

２．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
国際緊急援助隊（二次隊）派遣・・・報道発表

環境省
Ministry of the Environment

モーリシャス沿岸における油流出事故に対する国際緊急援助隊（二次隊）派遣について

令和２年８月17日（月）

＜外務省、JICA同時発表＞

令和２年８月15日（土）に小泉環境大臣が発表したモーリシャス沿岸における油流出事故に対する環境省の対応方針の詳細が固まりましたので、お知らせします。

我が国は、油流出事故に対し、同国政府からの要請を受け、計７名からなる国際緊急援助隊（二次隊）を派遣することを決定しました。環境省から職員２名、国立環境研究所から職員２名の計４名が参加します。

援助隊は同年８月19日（水）に本邦を出発し、現地では海岸に漂着した油状物への対処、漂着地域の生態系への影響の把握などを支援します。環境省として、人類全体の財産である生物多様性の危機に繋がる事態への対処を、全力でサポートする方針です。

１．派遣体制・スケジュールの詳細

現地時間令和２年７月25日（土）にモーリシャス共和国沿岸で座礁した、ばら積み貨物船「ＷＡＫＡＳＨＩＯ」による油流出事故に対し、同国政府からの要請を受け、我が国は、計７名からなる国際緊急援助隊（二次隊）を派遣することを決定しました。

①環境省水・大気環境局水環境課海洋環境室　室長補佐
堀野上　貴章（ほりのうえ　たかあき）

②環境省自然環境局自然環境計画課　課長補佐
羽井佐　幸宏（はいさ　ゆきひろ）

③国立研究開発法人国立環境研究所生物・生態系環境研究センター　センター長
山野　博哉（やまの　ひろや）

④国立研究開発法人国立環境研究所地域環境研究センター　主任研究員
牧　秀明（まき　ひであき）

２．派遣の趣旨

モーリシャスは、サンゴ礁などの生物多様性の宝庫であり、その恵みにより、漁業や観光を営み、経済を成り立たせている国です。今回の事故は、生物多様性の損失に繋がる重大な危機であり、モーリシャスにとってはコロナ禍に加えての打撃となり、死活的な影響を受けることになります。

環境省として、人類全体の財産である生物多様性の危機に繋がる事態への対処を、全力でサポートする方針です。

２．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
国際緊急援助隊（三次隊）派遣

【三次隊の活動予定】

メンバー：

①東北学院大学名誉教授

宮城　豊彦（みやぎ　とよひこ）【マングローブ生態学】

②いであ株式会社技術顧問

藤原　秀一（ふじわら　しゅういち）【サンゴ礁生態学】

③山階鳥類研究所保全研究室長

水田　拓（みずた　たく）【鳥類生態学】

※このほか、外務省１名、JICA２名を派遣

活動予定：

・９月２日に日本を出発。４日にモーリシャスに到着し、５日から活動を開始。

・マングローブ・サンゴ群集・野生生物や海水の水質・底質などの詳細な調査について、手法の提案や実施の支援などを行う予定。

２．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
国際緊急援助隊（三次隊）派遣・・・報道発表

環境省
Ministry of the Environment

モーリシャス沿岸における油流出事故に対する環境省専門家派遣決定

令和2年9月1日（火）

＜外務省、JICA同時発表＞

１．令和２年７月25日（土）にモーリシャス共和国沿岸で座礁した、ばら積み貨物船「ＷＡＫＡＳＨＩＯ」による油流出事故に対し、同国政府からの要請を受け、我が国は、国際緊急援助隊（三次隊）を派遣することを決定し、環境省からは有識者３名を派遣しますので、お知らせします。

２．三次隊は明日９月２日（水）に本邦を出発する予定で、現地では、マングローブ・サンゴ群集・野生生物や海水の水質・底質などの詳細な調査などを支援します。環境省として、人類全体の財産である生物多様性の危機に繋がる事態への対処を、全力でサポートする方針です。

■派遣の趣旨

モーリシャスは、サンゴ礁などの生物多様性の宝庫であり、その恵みにより、漁業や観光を営み、経済を成り立たせている国です。今回の事故は、生物多様性の損失に繋がる重大な危機であり、モーリシャスにとってはコロナ禍に加えての打撃となり、死活的な影響を受けることになります。

環境省として、人類全体の財産である生物多様性の危機に繋がる事態への対処を、全力でサポートする方針です。

■派遣体制

現地時間令和２年７月25日（土）にモーリシャス共和国沿岸で座礁した貨物船「ＷＡＫＡＳＨＩＯ」による油流出事故に対し、同国政府からの要請を受け、我が国は、計６名からなる国際緊急援助隊（三次隊）を派遣することを決定しました。

以下のとおり、環境省からは３名の有識者を派遣します。

①東北学院大学名誉教授　宮城　豊彦（みやぎ　とよひこ）　【マングローブ生態学】

②いであ株式会社技術顧問　藤原　秀一（ふじわら　しゅういち）【サンゴ礁生態学】

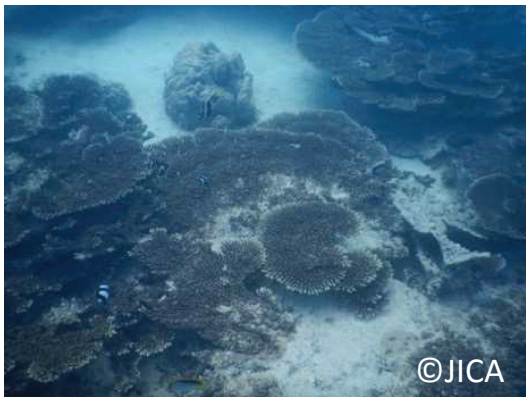
③山階鳥類研究所保全研究室長　水田　拓（みずた　たく）　【鳥類生態学】

■スケジュール・活動内容

国際緊急援助隊（三次隊）は９月２日（水）に出発予定で、現地では、マングローブ・サンゴ群集・野生生物や海水の水質・底質などの詳細な調査などを支援する予定です。

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
油流出・防除活動による環境影響への対応

✓マングローブ林では、油の樹木への付着や泥土等への滲入がみられる
← マングローブに残った油の防除方法を提案中
✓マングローブ・サンゴ群集・野生生物や海水の水質・底質などの詳細を今後把握予定
← 詳細な環境調査の助言、汎用資機材の供与



事故発生地近辺のサンゴ礁

油吸着シートの試験

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討

✓「詳細な環境調査や解析」を、中長期に継続（モニタリング）する必要
← モニタリング計画の作成や実施の支援
調査に必要な汎用資機材の供与
✓長期的には生態系などの環境再生を模索
← 環境再生方策の検討・実施を支援

シュノーケリングによるサンゴ調査

マングローブ林の油汚染の状況確認

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（サンゴへの影響）

サンゴへの影響についての現地調査

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（サンゴへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（サンゴへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（サンゴへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（サンゴへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（マングローブへの影響）

マングローブへの影響についての現地調査

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（マングローブへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（マングローブへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（マングローブへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
中長期の環境モニタリングと再生方策の検討
（マングローブへの影響）

2．環境省の援助活動の状況とさらなる対応
小泉大臣とラマノ環境大臣との面会（9月３日）

【【場所】オンライン
【使用言語】英語

モーリシャス側出席者

カビダス･ラマノ
環境･廃棄物処理･
気候変動大臣

日本側出席者

小泉 進次郎 環境大臣
佐藤 ゆかり 環境副大臣
鳥居 敏男 環境省自然環境局長
加藤 義治 駐モーリシャス大使
浪岡 大介 外務省アフリカ第二課長

- 日本からの国際緊急援助隊の活動やさらなる支援方針について、現地の環境保全面の対応ニーズに合致するものであるとして、謝意と期待
- 各国の支援を得て回復に向けて努力している現状について説明

- 小泉大臣から、油流出事故に対するお見舞い、我が国の国際緊急援助隊に対するモーリシャス政府の支援への謝意を述べるとともに、我が国として、今後とも全力で支援していく方針をお伝え
- 小泉大臣と佐藤副大臣から、国際緊急援助隊の活動成果を踏まえ、環境モニタリングの計画策定や実施、環境再生の方策の検討・実施等の支援も検討について説明

両大臣は、本日の議論の結果も踏まえて、引き続き、両政府間で緊密に連携協力して対応していくとの認識を共有した。